

いまの社会を、憲法通りにつくり変えよう

憲法改悪ストップ兵庫県共同センター週刊ニュース

650-0012 神戸市中央区北長狭通 5-2-10・兵高教組会館 4F

電話：078-366-6855 FAX：078-366-6856

Eメール：kenpou-hgkyodo@s9.dion.ne.jp

HP：https://kenpou-hyougo.sakura.ne.jp/

憲法を活かそう

No.989

2025年1月23日

戦火よびこむ「安保三文書」破棄せよ、戦争の覚悟でなく 平和の国づくりを たたかい続けよう

あれから30年の思い、1.17阪神大震災

17日、阪神大震災30年のこの日、県下各地の約60カ所で様々な追悼行事が行われました。「今、自分の周りにいてくれている大切な人は、いて当たり前じゃない。一瞬にしていなくなってしまうこともあるのだ、ということ。」と県主催の式典で遺族代表も述べていました。



「活断層直下型」で震度7の揺れはわずか10秒間でした。これが大市街地で多数の火災を発生させ、高速道路の橋桁が落下、6434人の死者を出しました。住んでいた家屋の崩壊、水・電気・ガスのストップは、厳寒のなか、地獄のような惨状でした。



地震・地質学者は、日本列島は地震活動期に入ったとうたえ、まさに東日本大震災から2024年元旦能登地震まで大規模地震に見舞われています。問題は、この

阪神大震災で体験した被災の生き地獄は、現に能登半島でも続いていることです。

当時の政府は「私有財産制の日本なので、生活再建は自助努力で」の姿勢。しかも30年間に「創造的復興」の名で被災者を置き去りにしてきた方針は今、

新長田周辺の建造物に象徴されています。

一方「生きて住み続ける



権利と人権尊重」を掲げ、「住宅再建500万円、生活支援300万円の公的支援」の市民運動は多くの識者も巻き込み、ついに国会で「被災者生活支援法」を成立させました。しかし、その後の自公政権の怠慢政治はどうでしょう、トイレ等に苦しんだ30年前の神戸の被災者の姿は、いま能登の災害に直面する人たちにおそいかかっているのです。

『日本沈没』を書いた小松左京氏の『大震災'95』（河出文庫）が昨2024年11月に再版されました。小松左京は阪神間に住み続け1995年1月以降県下の

地震災害を隈無く書き続けました。この年12月になって被災者実態の深刻さに対し、政府・県政のヒドさに、「年が明けたら、私自身も十分な『人間的、市民的根拠』のもとに『告発』なり、『弾劾』にまわるかも知れない」と警告を發す程でした。

“ようこそ基地に”兵庫の中学生

航空自衛隊那覇基地のホームページでは、次のように中学生たちの動きを喜んで伝えています。

「兵庫県より那波中学校の生徒さんが修学旅行で那覇基地へ来てくれました。迫力あるF15を間近で見たりまたパイロットの装具を試着したりと大興奮！自衛隊の任務について学びました！でも一番嬉しかったのは那覇基地カレーだったかもね」と。



◆◆◆地域や団体の催し◆◆◆

★★★ 2月1日（土） 13時～

兵庫憲法共同センター2025年総会

場所：神戸市総合福祉会館第二会議室

講演：門屋史明さん・共産党兵庫県議団事務局長

『兵庫県知事選の裏表

・これからの県政の方向は』

総会議事と意見交換

（連）078-366-6855

★★★ 2月9日（日） 14時～

映画「戦雲～いくさふむ～」上映会

主催：九条の会・兵庫県医師の会

後援：神戸新聞社・毎日新聞神戸支局

・サンテレビ・ラジオ関西

場所：兵庫県保険医協会 5階会議室

トーク：上映後に三上智恵監督のお話

参加費：¥500

参加予約は下記へ

（連FAX）078-393-1820